OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	インドネシア語の他動詞を形成するoptional の接尾辞-kan についての一考察
Author(s)	原, 真由子
Citation	外国語教育のフロンティア. 2025, 8, p. 197-221
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/100894
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

インドネシア語の他動詞を形成する optional の接尾辞 -kan についての一考察[i]

A Study of the Optional Suffix -kan Forming Transitive Verbs in Indonesian

原　真由子

要約

The suffix *-kan*, one of the affixes that form transitive verbs, has a number of functions, such as causative, topical, benefactive, and instrumental, but there is a group of verbs with the suffix *-kan* added that do not fall into any of these functions. Sneddon et al. (2010), who describe the standard grammar of Indonesian, classify the group as the "optional" suffix *-kan* verbs, and find that the meaning of the verb does not significantly change whether the *-kan* suffix is present or not. In addition, in active sentences, the object following the verb in both cases is considered to be the paient of the acion. Verbs that fall into this category include "teach," "guide," "give," "send," "state," and "sing. Some of these verbs can take double objects, and in passive sentences, the presence or absence of the suffix *-kan* depends on whether the subject is the patient of the action or the recipient (Sneddon et al. 2010, Moeliono et al. 2017). In practice, however, we often find cases that differ from the above norms even in formal domains of language use, where adherence to standard grammar is expected. Additionally, differences are also found among verbs. Is this because the norms have changed and diverged from the actual usage? And is the optional suffix *-kan* simply optional without carrying any particular function? To answer these questions, it is necessary to examine how the optional suffix *-kan* is used in actual language use. This paper will explore the usage of verbs with and without the optional -kan suffix in *Kompas*, a major daily newspaper in Indonesia, and will consider how often these forms appear and whether there is any distinction in their usage.

キーワード：インドネシア語、他動詞、接尾辞 -kan

1. はじめに

他動詞を形成する接辞の一つである接尾辞 -kan の機能には、使役、話題、ベネファクティブ、道具、徹底があるが、どの機能にも当てはまらない接尾辞 -kan が付加した動詞群がある。インドネシア語標準文法を記述する Sneddon et al. (2010) では、そのグループを "optional" の接尾辞 -kan として分類し、その動詞群について、接尾辞 -kan がある場合とない場合ではほぼ意味が変わらず、さらに能動文においては動詞に後続する目的語はどちらも動作対象であるとされる。これに該当する動詞には、「教える」「案内する」「与える」「送る」「述べる」「歌う」などがある。また、これらの動詞の一部には二重目的語を取りうる動詞があり、受動文においては、主語が動作対象であるか受け手であるかによって接尾辞 -kan の有無が決まるとされている (Sneddon et al. 2010,

Moeliono et al. 2017)。

しかしながら、実際には、標準文法に忠実であることが期待されるフォーマルな言語使用領域においても上述の規範とは異なる事例がしばしば見受けられる。また、動詞間でも違いが見られる。それは規範が変化し、実態と乖離しているためなのだろうか。そして、optional の接尾辞 -kan は単に optional であるだけで、担う機能はないのだろうか。まず、これらの問いに答えるために、実際の使用例がどのようになっているのかを見る必要がある。本稿では、インドネシアの代表的な日刊紙である *Kompas* 紙を対象に、optional の接尾辞 -kan が付加された動詞と付加されない動詞がどのように、どの程度使われているのか、また使い分けがあるのかどうかを考察する。

2. データ

対象とするコーパスは、インドネシアの日刊紙 *Kompas* のウェブ版 3 ヶ月分（2004 年 1 月～ 3 月）6,785 件の記事である。*Kompas* 紙は、インドネシアで最大の購読数をもつ全国紙である。インドネシア語は大きく高位変種と低位変種に分けることができるダイグロシアが認められ、新聞、雑誌等の出版物は高位変種で著される。したがって、*Kompas* 紙のインドネシア語は基本的にはフォーマルなインドネシア語であり、インドネシアの国語政策の中で定められた標準インドネシア語ということになる。ただし、インタビューのコメントを直接引用したものなど、必ずしも標準インドネシア語とは限らず、口語である事例も一部含まれる。

上述のコーパスを用いて、二重目的語をとるかどうか、目的語の意味役割にどのようなものが現れうるかといった点を考慮し、本稿では optional の接尾辞 -kan が付加される他動詞と付加されない他動詞のペアがある次の 5 つの意味を分析する：「送る」(mengirim/mengirimkan)、「与える」(memberi/memberikan)、「教える」(mengajar/mengajarkan)、「歌う」(menyanyi/menyanyikan)、「言及する」(menyebut/menyebutkan)。

3. インドネシア語の他動詞と他動詞文

ここでは、上述した optional の接尾辞 -kan が付加された他動詞と付加されていない他動詞を能動文と受動文において考察する前に、まずインドネシア語の能動文と受動文について概説する。

インドネシア語の他動詞には、接頭辞 meN- が付加した形態である meN- 形、接頭辞 di- が付加した di- 形、接頭辞が付加されないゼロ形の 3 つの形態がある。能動文では meN- 形の他動詞が、受動文では di- 形とゼロ形が用いられる。接尾辞が付加される他動詞は、原則として、本稿で扱う接尾辞 -kan を含め、3 つのどの形態においても接尾辞が脱落することはない。

能動文は、以下のような構造を持つ。動作主である主語に meN- 形の他動詞が後続し、目的語がさらに続く。目的語は、動詞によって動作対象 (patient)、場 (location)、道具 (instrument) など、意味役割が異なるが、多くは動作対象 (patient) である。

動作主＋他動詞（meN- 形）＋目的語

以下の (1) は、動作対象の目的語をとる能動文の例である。接尾辞 -kan が付加されない他動詞を例にとる。主語に動作主 saya（私）が述べられ、meN- 形の他動詞（洗う）、目的語である mobil itu（その車）が続く。

(1)　Saya　　mencuci　　mobil　　itu.
　　私　　meN- 形（洗う）　　車　　それ
「私はその車を洗った。」

受動文は、能動文における目的語が主語位置に置かれる。動詞の形態は、上述の通り di- 形とゼロ形があり、動作主の人称によって形態が決まる。単数・複数を問わず、原則として、動作主が一・二人称である場合はゼロ形、動作主が三人称である場合は di- 形である。動作主が一・二人称である場合は、動作主＋ゼロ形という語順であり、動作主が三人称である場合は di- 形＋動作主という逆の語順となる。動作主は前置詞 oleh（〜によって）を任意で共起させることが可能である。それぞれの文構造は以下の通りである。

動作主が一・二人称の場合：
目的語（能動文における）＋動作主＋他動詞（ゼロ形）
動作主が三人称の場合：
目的語（能動文における）＋他動詞（di- 形）＋ (oleh) ＋動作主

次の (2) と (3) は受動文の例である。(2) は動作主が一人称 (saya) の例であり、(3) は動作主が三人称 (Agus) である例である。(2) と (3) のいずれも、能動文における目的語に相当する名詞句の mobil itu（その車）が主語を構成し、動作主が一人称の例である (2) は、「saya ＋ゼロ形」、動作主が三人称である (3) は「di- 形＋ (oleh) ＋動作主」が後続する。

(2)　Mobil　itu　　saya　　cuci.
　　車　　それ　　私　　ゼロ形（洗う）
「その車は私が洗った。」
(3)　Mobil　itu　　dicuci　　(oleh)　　Agus.
　　車　　それ　　di- 形（洗う）　　〜によって　　人名
「その車はアグスが洗った。」

以上、インドネシア語の能動文と受動文の特徴を簡潔に述べた。能動文と受動文の違いだけでなく、受動文においても動作主の人称によって動詞の形態と構造が異なることがわかる。ただし、本稿においては、受動文は動作主が三人称の場合のみ、つまり動詞が di- 形の形態であるものを対象とする。

4. Optional の接尾辞 -kan が付加した他動詞と付加しない他動詞の比較

Sneddon et al. (2010) を参考に、複数の optional の接尾辞 -kan が付加された他動詞と付加されていない他動詞を取り上げ、Kompas 紙に見られた事例を対象にそれぞれ比較し、出現頻度、目的語の意味や意味役割、能動文・受動文など文構造の観点から分析を行った。明らかになったことを「送る」(mengirim/mengirimkan)、「与える」(memberi/memberikan)、「教える」(mengajar/mengajarkan)、「歌う」(menyanyi/menyanyikan)、「言及する」(menyebut/menyebutkan) の事例に基づいて述べる。標準インドネシア語文法が著されている 2 冊の文法書である Sneddon et al. (2010) と Moeliono et al. (2017) および 2 冊のインドネシア語辞書、Badan Pengembangan dan Pembinaan Bahasa, Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan Republik Indonesia (2016) *Kamus Besar Bahasa Indonesia Edisi Kelima*『インドネシア語大辞典第５版』のオンライン版 KBBI Daring VI（以下 KBBI Daring） と Stevens and Schmidgall-Tellings (2010) *A Comprehensive Indonesian English Dictionary Second Edition* に見られる記述と例文と対照しながら、接尾辞 -kan が付加されていない動詞と付加されている動詞のペアを、能動文と受動文に分けて見ていく。上述の通り、受動文については、動作主が一・二人称の場合に用いられるゼロ形の分析は行わず、動作主が三人称の場合に用いられる di- 形の受動文のみを扱う。

4.1 他動詞「送る」(mengirim/mengirimkan、dikirim/dikirimkan)

Sneddon et al. (2010: 88) で optional の接尾辞 -kan が付加される動詞の例としてあげられた動詞群の一つとして mengirim(kan) が含まれている。mengirim と接尾辞 -kan が付加された mengirimkan は同じ意味「～を送る」をもち、統語的にも同じ振る舞いをするとされる。つまり、いずれも能動文において動詞の後に動作対象 (patient) である目的語が現れ、多くはさらに送られる先である受け手 (recipient) が前置詞に導かれ述べられる。インドネシア語辞書である KBBI Daring と Stevens and Schmidgall-Tellings (2010) においてもそれを示すような例が挙げられている。ただし、Sneddon et al. (2010: 261) では、受動文においては必ずしもそうではなく、主語が動作対象である場合、接尾辞 -kan が付加された形態が用いられる動詞としてあげられている。インドネシア語辞書である KBBI Daring と Stevens and Schmidgall-Tellings (2010) では、主語が動作対象である受動文の例において dikirim と dikirimkan の両方が見られている。

以下、能動文と受動文に分けてそれぞれ分析した結果を見る。まず、*Kompas* 紙で見られた mengirim と mengirimkan の目的語の種類と数を観察した結果が以下の表 1 である。

表 1：mengirim と mengirimkan（送る）の頻度と目的語

mengirim	305
mengirim －動作対象－前置詞－受け手	162[ii]
mengirim －動作対象	139
mengirim －前置詞－受け手	3
その他	1
mengirimkan	221
mengirimkan －動作対象－前置詞－受け手	115
mengirimkan －動作対象	100
mengirimkan －前置詞－受け手	2
その他	4

表からわかるように、mengirim と mengirimkan のどちらも、目的語が述べられる時はすべて動作対象であり、さらに前置詞句が後続し、受け手が述べられる事例も多い。以下、具体例を示す。

(4) Untuk　itu, Departemen Kesehatan telah **mengirim** 44 tenaga tambahan.
　～のため それ 省　　健康　　すでに～ meN- 形（送る） 44 力　　追加
「そのため、保健省はすでに 44 人の追加の人材を送った。」(*Kompas*, 16 Februari 2004)
(5) Pekan lalu　kami telah **mengirim** undangan ke sembilan negara. (*Kompas*, 13 Maret 2004)
　週　　過ぎた 私たち すでに～ meN- 形（送る）招待状　～へ 9　　国
「先週、すでに私たちは 9 ヶ国に招待状を送った。」
(6)（中略）...panitia bisa　**mengirimkan** hasil pemilihan lebih awal. (*Kompas*, 23 Maret 2004)
　　委員会　～できる meN-kan（送る） 結果 選挙　　より 初め
「（中略）…（選挙）委員会は選挙結果をより早く送ることができた。」
(7) Deplu kemudian **mengirimkan** berkas-berkas itu　kepada Polri. (*Kompas*, 20 Maret 2004)
　外務省 その後　　meN-kan（送る）ファイル　　それ ～へ　警察
「外務省はその後それらのファイルを警察に送った。」

(4) は、動作主である Departemen Kesehatan（保健省）が主語を構成し、述語として meN- 形の他動詞 mengirim（送る）が述べられ、その動作対象である目的語 44 tenaga tambahan（44 人の追加の人材）が続く。(5) は、同じく述語が mengirim であり、動作対象の目的語 undangan（招待状）が述べられ、さらに受け手が前置詞句 ke sembilan negara（9 ヶ国へ）で示されている例である。一方、(6) と (7) は接尾辞 -kan が付加した mengirimkan の例であるが、mengirim の例と同様に、それぞれ目的語である hasil pemilihan（選挙結果）と berkas-berkas itu（それらのファイル）のどちらも動作対象であり、(7) にはさらに受け手を表す前置詞句 kepada Polri（警察へ）が見られる。

次に、受動文で用いられる形態である dikirim/dikirimkan の頻度について見る。上述の通り、Sneddon et al. (2010: 261) は、受動文においては接尾辞 -kan が付加された形態

dikirimkan が用いられると述べる。一方、辞書の用例では、接尾辞 -kan が付加されていない dikirim と付加されている dikirimkan の両方の例が見られる。

表 2 は *Kompas* 紙において見られる dikirim と dkirimkan が何を主語としているのかに注目して集計したものである。

表 2：dikirim と dikirimkan（送る）の頻度と主語（目的語）

dikirim	315
動作対象－ dikirim －前置詞－受け手	154
動作対象－ dikirim	93
動作対象－ dikirim － (oleh) －動作主	34
動作対象－ dikirim － (oleh) －動作主－前置詞－受け手	10
その他	24
dikirimkan	88
動作対象－ dikirimkan －前置詞－受け手	43
動作対象－ dikirimkan	24
動作対象－ dikirimkan － (oleh) －動作主	12
動作対象－ dikirimkan － (oleh) －動作主－前置詞－受け手	7
その他	2

表から、dikirim と dikirimkan のいずれも主語には動作対象が現れており、さらに動作主が述べられている例や前置詞句によって受け手が示されている例が見られ、文構造において特に違いは見られないことがわかる。具体例を以下に示す。

(8) Kertas suara itu akan **dikirim** KPU Pusat 30 hari menjelang hari pencoblosan.
紙 票 それ ~の予定 di- 形（送る） 選挙管理委員会 中央 30 日 ～に際し 日 投票
「その投票用紙は投票日の 30 日前に中央選挙管理委員会が送る予定である。」
(*Kompas*, 5 Februari 2004)

(9) Surat sudah **dikirimkan** oleh Menteri Keuangan kepada MA, ...（中略）
文書 すでに~ di-kan（送る） ~によって 大臣 金融 ～へ 最高裁
「文書はすでに財務大臣によって最高裁に送られ、…（中略）」(*Kompas*, 30 Januari 2004)

(8) と (9) は、それぞれ他動詞である dikirim と dikirimkan を用いた、動作主が三人称である受動文の例である。表においても示された通り、接尾辞 -kan が付加された場合でもそうでない場合でも、それぞれ主語である kertas suara itu（その投票用紙）と surat（文書）が動作対象であることがわかる。そして、いずれも、他動詞に続き動作主が述べられている。動作主は、(8) では KPU Pusat（中央選挙管理委員会）であり、(9) では Menteri Keuangan（財務大臣）が前置詞 oleh に導かれ示されている。また、(9) はさらに受け手である MA（最高裁）が述べられ、前置詞 kepada によって導かれている。また、ここには挙げていないが、動作主や受け手を表す前置詞句がない例もどちらの動詞に

ついても十分多い。このように、dikirim と dikirimkan の意味と文構造の違いは特に見られないことがわかる。

以上、能動文と受動文において「送る」を意味する mengirim と mengirimkan、dikirim と dikirimkan を考察した。その結果、文法書と辞書の記述と同様に、能動文において mengirim と mengirimkan の目的語はすべて動作対象であり、さらに前置詞句が後続し、受け手が述べられる事例も多く見られた。受動文では、Sneddon et al. (2010: 261) によれば、動作対象である主語に対しては接尾辞 -kan が付加された dikirimkan が用いられるが、KBBI Daring と Stevens and Schmidgall-Tellings (2010) の辞書の用例では必ずしもそうではなく、dikirim と dikirimkan の両方が見られており、研究間の解釈の違いがあった。コーパスデータではむしろ dikirim の事例がより多く認められ、Sneddon et al. (2010: 261) の記述とは異なる結果となった。dikirim と dikirimkan のいずれも主語には動作対象が現れており、さらに動作主が述べられている例や前置詞句によって受け手が示されている例が見られ、文構造において特に違いは見られなかった。

4.2 他動詞「与える」(memberi/memberikan、diberi/diberikan)

Sneddon et al. (2010: 88) で optional の接尾辞 -kan が付加される動詞の例としてあげられた動詞群の一つとして memberi(kan) が含まれている。能動文において動詞直後に置かれる目的語が動作対象である場合、memberi と memberikan は同じ意味「～を与える」を表し、memberikan の接尾辞 -kan は optional であるとしている。一方、Moeliono et al. (2017: 466) では、動詞直後に置かれる目的語が明確に区別されている。つまり、memberi の場合は受け手が、memberikan の場合は動作対象が動詞直後に目的語として現れ、それぞれ「memberi ＋受け手＋動作対象」、「memberikan ＋動作対象＋前置詞＋受け手」という語順となる。また、KBBI Daring および Stevens and Schmidgall-Tellings (2010) の辞書の記述では、「memberi ＋動作対象＋ kepada（～へ）＋受け手」の例のみがあげられ、「memberi ＋受け手＋動作対象」の例はなく、memberikan の例もすべて「memberikan ＋動作対象」である。これらの記述から、memberi の直後の目的語の扱いについて研究間の違いが見られる。つまり、Moeliono et al. (2017) のみが異なり、受け手であるとしているが、memberikan の場合はどの研究も共通し、動詞直後には動作対象の目的語を置くとしている。

受動文においては、Moeliono et al. (2017: 466)、Sneddon et al. (2010: 261) では、diberi の主語は受け手であるとされる[iii]。また、diberikan の主語は動作対象であると述べられている。つまり、接尾辞 -kan の有無で主語の意味役割が区別される。

Kompas 紙のコーパスデータを分析し、memberi と memberikan の目的語の種類と数を観察した結果が以下の表 3 である。

表 3：memberi と memberikan（与える）の頻度と目的語

memberi	1777[iv]
memberi	23
memberi －動作対象	900
memberi －動作対象－前置詞－受け手	797
memberi －受け手－動作対象	54
memberi －受け手	1
その他	2
memberikan	2439
memberikan	6
memberikan －動作対象	1277
memberikan －動作対象－前置詞－受け手	1136
memberikan －受け手	1
memberikan －受け手－動作対象	13
memberikan －前置詞－受け手	4
その他	2

このように、memberi の直後の目的語は圧倒的に動作対象が多いが、受け手である事例も少ないものの見られることがわかる。memberikan の場合も、直後の目的語は圧倒的に動作対象が多いが、受け手である事例も若干認められる。したがって、memberi については、上述の KBBI Daring と Stevens and Schmidgall-Tellings (2010) の２種類の辞書が示唆すること（つまり「memberi ＋動作対象」がより一般的である）に一致していると言える。memberikan に関しては、辞書と文法書の記述と概ね一致していると言えるが、memberikan の直後の目的語として受け手が現れる例は規範から逸脱したものということになる。

次に、それぞれの例を示す。

(10) Harunata, Jumat, **memberi** bantuan uang kepada korban yang rumah-nya hilang
人名 金曜 meN-形（与える） 援助 お金 ～へ 犠牲者 関係詞 家 - その なくなる
atau rusak berat dan ringan. (*Kompas*, 14 Februari 2004)
または 壊れる 重い そして 軽い
「ハルナタは、金曜日に家を失ったあるいは家屋の大なり小なりの損壊を被った被害者に金銭的支援を行った。」

(10) は memberi の直後に現れる目的語として圧倒的に多い「memberi ＋動作対象」の例である。目的語 bantuan uang（お金の援助）は動作対象である。そして、目的語に続き前置詞 kepada（～へ）が導く前置詞句が述べられ、受け手が示される。この例のように、大抵は動作対象の後にその受け手を示す前置詞句が続く。

(11) Pada saat-saat tertentu ia **memberi** mereka makanan, pelayanan kesehatan, serta
〜で 時 一定の 彼(女) meN- 形（与える） 彼ら 食品 サービス 健康 そして
kebutuhan kecil lain-nya. (*Kompas*, 11 Maret 2004)
需要 小さい 他の - その
「一定の時期に彼は彼らに食べ物、保健サービス、その他の細々とした必需品を与えた。」

(11) は「memberi ＋受け手＋動作対象」の例である。動詞直後の mereka（彼ら）は受け手であり、それに続き動作対象である makanan, pelayanan kesehatan, serta kebutuhan kecil lainnya（食べ物、保健サービス、その他の細々とした必需品）が述べられる。このような例は、上記の (10) のような「memberi ＋動作対象」に比べて事例数ははるかに少ない。

(12) Pemilih cenderung **memberikan** suara kepada parpol yang memenuhi desakan kebutuhan
有権者 傾向がある meN-kan（与える） 票 〜へ 政党 関係詞 満たす 訴え 需要
sosial ekonomi. (*Kompas*, 13 Februari 2004)
社会 経済
「有権者は経済社会的な需要の訴えを叶えてくれる政党に票を投じる傾向がある。」

(12) では、動詞の直後に置かれる目的語 suara（票）が動作対象となっている。それに続く前置詞句 kepada parpol yang memenuhi desakan kebutuhan sosial ekonomi（経済社会的な需要の訴えを叶えてくれる政党に）が受け手を表している。memberikan の直後に現れる目的語は規範においては動作対象であり、(12) のようにほとんどはその規範に一致していた。この例は、動作対象の後に受け手を表す前置詞句が続き、統語的に (10) のような「memberi ＋動作対象」と違いは見られず、意味の上でも差異は認められない。

(13) Tahun lalu, Pemerintah Jepang **memberikan** Honda izin untuk menguji
年 過ぎた 政府 日本 meN-kan（与える） ホンダ 許可 〜ため 試験する
Honda Intelligent Driver Support (HIDS) di jalan raya. (*Kompas*, 19 Maret 2004)
技術名 〜で 道 大きい
「昨年、日本政府は公道でホンダ・インテリジェント・ドライバー・サポートをテストする許可をホンダに与えた。」

2439 例のうちわずか 14 例であったが、(13) のように、規範から外れる「memberikan ＋受け手」が見られた。動詞直後の目的語 Honda（ホンダ）が受け手であり、その後に述べられる目的語 izin untuk menguji Honda Intelligent Driver Support (HIDS) di jalan raya（公道でホンダ・インテリジェント・ドライバー・サポートをテストする許可）が動作対象となっている。

次に受動文を見る。3. で上述した通り、di- 形の動詞が使われる受動文では、能動文での目的語が主語となる。この原則では、上述の (10) の例「memberi ＋動作対象」およ

び (11) の「memberi ＋受け手」の例があることを踏まえると、diberi が用いられる受動文においては、主語は動作対象と受け手の両方が可能であるはずだが、上述の通り、Moeliono et al. (2017)、Sneddon et al. (2010) では、diberi の主語は受け手であるとされ、diberikan の主語は動作対象であると述べられている。

コーパスデータにおいて diberi と diberikan の目的語の種類と数を観察した結果が以下の表 4 である。

表 4：diberi と diberikan（与える）の頻度と主語（目的語）

diberi	640[v]
diberi	1
受け手－ diberi －動作対象	625
受け手－ diberi	3
動作対象－ diberi	8
diberi －動作対象－前置詞－受け手	1
前置詞－受け手－ diberi －動作対象	2
diberikan	1038
diberikan	4
動作対象－ diberikan	492
動作対象－ diberikan －前置詞－受け手	360
diberikan －動作対象	14
diberikan －動作対象－前置詞－受け手	10
diberikan －動作対象－受け手	1
前置詞－受け手－ diberikan －動作対象	25
前置詞－受け手－動作対象－ diberikan	3
前置詞－受け手－ diberikan	2
受け手－ diberikan －動作対象	127

このように、*Kompas* 紙においては diberi の主語はほとんど全てが受け手であり、diberikan の主語は圧倒的に動作対象である例が多いが、主語が受け手である事例も無視できない程度認められる。したがって、*Kompas* 紙に見られる diberi については規範に一致しているが、diberikan に関しては多くは規範通りであるものの逸脱する例もある程度見られるということになる。

具体的な例は以下の通りである。

(14) Selain itu, penderita harus **diberi** obat penurun panas dan minum
～の他に それ 患者 ～なければならない di-形(与える) 薬 低くするもの 熱 そして 飲む
air sebanyak-banyaknya. (*Kompas*, 19 Februari 2004)
水 できるだけ多く

「そのほかに、患者には解熱剤を与え、できるだけ多くの水を飲まないといけない。」

(14) は、主語 penderita（患者）は受け手であり、動詞 diberi の後に補語として動作対象 obat penurun panas（解熱剤）が述べられる。これは、文法書の記述に一致する「主語（受け手）+ diberi」の例であり、表で示したようにデータにおいて大多数を占めている。さらに、それらの多くは diberi の後には、この例のように補語として動作対象が述べられる。また、この例では言及されていないが、さらに動作主が現れる場合がある。

(15) Nama Irian Barat **diberikan** oleh Presiden Pertama RI Soekarno.
名前　イリアン　西　di-kan（与える）～によって　大統領　初代　インドネシア共和国　人名
「西イリアンという名前は、インドネシア初代大統領スカルノによって与えられた。」(*Kompas*, 05 Maret 2004)

(16) Penghargaan Ilmu Pengetahuan dan Teknologi Toray tahun 2004 **diberikan** kepada
表彰　学問　知識　そして　技術　東レ　年　2004　di-kan（与える）～へ
31 orang, Selasa (3/2), di Jakarta. (*Kompas*, 04 Februari 2004)
31　人　火曜　2/3　～で　ジャカルタ
「2004 年東レ科学技術賞は、2 月 3 日火曜日、ジャカルタで 31 名に授与された。」

(15) と (16) は「主語（動作対象）+ diberikan」の例であり、(14) と同様に文法書に一致している。(15) は述語 diberikan に対する主語 nama Irian Barat（西イリアンという名前）が、(16) は主語 penghargaan Ilmu Pengetahuan dan Teknologi Toray tahun 2004（2004 年東レ科学技術賞）がともに動作対象である。diberikan の後に、動作主と受け手の両方あるいは一方が現れうる。(15) は diberikan の後に前置詞 oleh に導かれる動作主 Presiden Pertama RI Soekarno（インドネシア共和国初代大統領スカルノ）が置かれ、(16) は前置詞 kepada に導かれ受け手 31 orang（31 人）が述べられる。

(17) Untuk itu, kepada warga telah **diberikan** kartu pemilih sementara.
～のため　それ　～へ　住民　すでに～　di-kan（与える）　カード　有権者　一時的
「そのために、住民に暫定投票券が与えられた。」(*Kompas*, 30 Maret 2004)

diberikan の場合、(15) と (16) が基本的な語順であるが、(17) のように主語が後置されたり、受け手を表す前置詞句が動詞の前に述べられる例も見られる。(17) は受け手を示す前置詞句 kepada warga（住民に）が動詞 diberikan の前に述べられ、diberikan の後に主語である動作対象 kartu pemilih sementara（暫定投票券）が現れている。

(18) Sebagai contoh, bagaimana mungkin lembaga ini bisa berfungsi bila kantor saja
～として　例　どのように　可能な　機関　これ　～できる　機能する　～の場合　事務所　～さえ
tidak **diberi**? (*Kompas*, 08 Maret 2004)
～ない　di- 形（与える）
「例を挙げると、オフィスさえ与えられなかったら、この機関はどうやって機能する

のか。」

(19) Setiap atlet **diberikan** uang saku Rp 2 juta sebulan, sementara pelatih mendapat
各　選手　di-kan（与える）お金 ポケットルピア 2 ～百万 1 ヶ月　一方　コーチ 得る
penghasilan Rp 4 juta. (*Kompas*, 27 Maret 2004)
収入　ルピア 4 ～百万
「各選手は 1 ヶ月 200 万ルピアの小遣いが支給され、それに対してコーチは 400 万ルピアの収入を得る。」

一方、(18)、(19) は規範から外れた例である。(18) の場合、本来は diberi の主語は受け手でなければいけないが、主語が動作対象 kantor（オフィス）となっている。 (19) では、本来は diberikan の主語は動作対象であるところが、受け手である setiap atlet（各選手）となっている。(18) のような例は、表に示す通り 8 例のみであるが、(19) のような例は 127 例と無視できない数である。これらの例から diberi と diberikan の区別がなくなってしまっているのではないかという推測が可能であるが、その背景として (19) については次の可能性が考えられる。(17) のような受け手が文頭に述べられる例から前置詞が脱落したことによって、受け手が主語となったのではないかというものである。

このように、能動文と受動文に見られる「与える」を意味する他動詞 memberi と memberikan、diberi と diberikan をコーパスデータに基づいて考察した。能動文では、memberi と memberikan の直後に現れる目的語の意味役割について研究間の違いが見られた。つまり、Moeliono et al. (2017) では、memberi の場合は受け手が、memberikan の場合は動作対象が動詞直後に目的語として現れると述べ、その他は接尾辞 -kan の有無と関係なく目的語は動作対象であることが示唆されていた。実際の用例では、memberi と memberikan のいずれも、直後の目的語は圧倒的に動作対象が多く見られた。ただし、memberi には受け手の目的語も少ないものの観察された。したがって、頻度の点では、memberi については Moeliono et al. (2017) の記述とは異なる結果が見られたと言える。memberikan に関しては、辞書と文法書の記述と概ね一致していると言えるが、memberikan の直後の目的語として受け手が現れる例が若干あり、それは規範から逸脱したものということになる。

受動文については、文法書と辞書の記述と概ね一致する結果となった。すなわち、diberi の主語はほとんど全てが受け手であり、diberikan の主語は圧倒的に動作対象である例が多かった。しかし、diberikan は主語が受け手である事例も無視できない程度認められる。したがって、*Kompas* 紙に見られる diberi については規範に一致しているが、diberikan に関しては多くは規範通りであるものの逸脱する例もある程度見られるということになる。この逸脱した例（受け手 + diberikan + 動作対象）がなぜ見られるのかという疑問に対しては、本来は受け手の前に前置詞があるべきであり、その前置詞が脱落したことで生じたのではないかという解釈を提案する。

4.3 他動詞「教える」(mengajar/mengajarkan、diajar/diajarkan)

Sneddon et al. (2010: 261) によると、能動文においては mengajar と mengajarkan はいずれも目的語として動作対象をとり、接尾辞 -kan は optional である。インドネシア語

辞書の Stevens and Schmidgall-Tellings (2010) および KBBI Daring では、mengajar の例文として「mengajar+ 受け手」があり、mengajar の目的語として動作対象だけでなく、受け手もあることがわかる。mengajarkan については、それら２種類の辞書では Sneddon et al. (2010) と同じく目的語には動作対象が現れる。

一方、受動文の場合は、Sneddon et al. (2010: 261) は、主語の意味役割によって接尾辞 -kan の出現が異なると述べる。すなわち、主語が受け手である場合は diajar であり、主語が動作対象の場合は diajarkan であるとしている。

Kompas 紙の事例を分析し、mengajar と mengajarkan の目的語の意味役割に注目し頻度を示したのが以下の表 5 である。

表 5：mengajar と mengajarkan（教える）の頻度と目的語

mengajar	300
mengajar	267
mengajar －受け手	15
mengajar －動作対象	15
mengajar －補文	1
mengajar －前置詞－受け手	2
mengajarkan	85
mengajarkan	1
mengajarkan －受け手	14
mengajarkan －動作対象	33
mengajarkan －補文	22
mengajarkan －前置詞－受け手	15

mengajar は、文法書と辞書の記述通り、動詞直後の目的語として受け手と動作対象の両方をとることがわかる。なお、より注目すべき点として、目的語をとる例に比べて、目的語が見られない例が非常に多いことがあげられる。文脈から明らかである場合など必ずしも目的語が述べられない例も一部見られたが、圧倒的に多く占めるのは、「教育を行う」のような意味で自動詞的に用いられている事例や「授業時間」のように修飾語として用いられている事例であった。自動詞的に用いられている事例については、Moeliono et al. (2017: 468) では接頭辞 meN- が付加された他動詞派生語は “verba semitransitif”（半他動詞）と呼ばれ、目的語をとらない非他動詞的な使われ方があるとし、mengajar が例の一つとしてあげられている。Sneddon et al. (2010: 251-252) においてもそのような動詞を “pseudo-intransitive verbs”（擬似自動詞）と呼んでいる。

mengajarkan は、mengajar と同じように動詞直後の目的語として受け手と動作対象の両方をとることがわかる。しかしながら、「mengajarkan+ 受け手」は規範では見られないものである。また、mengajar にはほぼ見られないものとして、「mengajarkan+ 補文」が比較的多く見られた。mengajar と mengajarkan のいずれも名詞句の目的語が見られ

るが、補文は mengajarkan に偏っていると言える。
以下、mengajar と mengajarkan の事例を示す。

(20) Untuk membiayai kuliah, Nurlaila **mengajar** les privat. (*Kompas*, 21 Februari 2004)
～のため 費用を出す 授業 人名 meN-形（教える）レッスン プライベート
「学費を出すためにヌルライラは個人レッスンを教えた。」
(21) Bertha juga **mengajar** ibu rumah tangga, remaja, dan anak-anak. (*Kompas*, 29 Februari 2004)
人名 ～も meN-形(教える) 母親 家庭 青年 そして 子供達
「ベルタはまた主婦や若者、子供達に教えた。」

(20) では、mengajar の目的語 les privat（個人レッスン）は動作対象である。(21) では、目的語 ibu rurmah tangga, remaja, dan anak-anak（主婦や若者、子供達）は受け手である。このように、mengajar の目的語には動作対象と受け手の両方が認められる。

(22) Jadi, kalau seorang guru **mengajar** selama 30 jam dalam sebulan, ...（中略）
そのため もし~ならば 一人 教員 meN-形（教える）～の間 30 時間 ～の中で 1 ヶ月
「したがって、もしある教員が 1 ヶ月間で 30 時間教えるとしたら、…（中略）」(*Kompas*, 30 Maret 2004)

(22) は mengajar の目的語が述べられない例であり、自動詞的に用いられている。上述の通り、データではこのような例は目的語をとる例にくらべずっと多い。

(23) Oleh karena itu, kami juga **mengajarkan** soal kepemimpinan…（中略）(*Kompas*, 8 Februari 2004)
そのため 私たち ～も meN-kan（教える）問題 指導性
「そのために、私たちはまた指導性の問題について教え…（中略）」
(24) Kami ingin **mengajarkan** kepada siswa bahwa segala sesuatu ada konsekuensi.
私たち ～したい meN-kan（教える）～へ 生徒 補文標識 あらゆること ある 結果
「私たちは生徒に対してあらゆることには結果があることを教えたい。」(*Kompas*, 6 Februari 2004)

(23) と (24) は mengajarkan の例である。(23) は (20) の mengajar の例と同様に、目的語 soal kepemimpinan（指導性の問題）が動作対象となっている例である。(24) は、受け手を述べる前置詞句 kepada siswa（生徒に）の後に bahwa という補文標識に導かれた補文節の目的語 segala sesuatu ada konsekuensi（あらゆることには結果があること）が続く。このような補文節が現れるのは、ほぼ mengajarkan に偏っている。

(25) Kata-kata itu mengalir **mengajarkan** kita tentang tata krama mengelola suatu masyarakat.
言葉 それ 流れる meN-kan（教える）私たち ~について 礼儀作法 運営する ある 社会
「それらの言葉は流れ出て、ある社会を操作する礼儀作法について私たちに教えてくれた。」(*Kompas*, 20 Maret 2004)

(25) の例は、mengajarkan の目的語として受け手 kita（私たち）が述べられている。このような例は、文法書や辞書では見られない、いわば規範から外れている例である。mengajarkan の総数から見ると決して少なくはない数が見られている（85 例中 14 例）。

次に、受動文における他動詞 diajar と diajarkan を観察する。上で述べたように、Sneddon et al. (2010: 261) は、能動文では mengajar と mengajarkan は同じく動作対象を目的語としてとるが、受動文では主語の意味役割によって接尾辞 -kan の出現が異なると述べる。すなわち、主語が受け手である場合は diajar であり、主語が動作対象の場合は diajarkan であるとしている。*Kompas* 紙の事例を分析し、diajar と diajarkan に対する主語（能動文における目的語）の意味役割と数を観察した結果が以下の表 6 である。

表 6：diajar と diajarkan（教える）の頻度と主語（目的語）

diajar	13
受け手－ diajar	7
受け手－ diajar －動作対象	1
受け手－ diajar －補文	3
動作対象－ diajar	2
diajarkan	55
diajarkan	3
動作対象－ diajarkan	31
動作対象－ diajarkan －前置詞－受け手	5
diajarkan －動作対象	5
diajarkan －補文	2
前置詞－受け手－動作対象－ diajarkan	1
受け手－ diajarkan －動作対象	3
受け手－ diajarkan －補文	5

diajar は全体数がそもそも限られているが、主語に置かれる能動文における目的語のほとんどが受け手であり、diajarkan は主語の多くが動作対象である。したがって、Sneddon et al. (2010) の記述の通りであると言える。ただし、それとは異なる「受け手＋ diajarkan」が観察されている。暫定的な推測として、受け手を表す前置詞句が動詞句の前に現れた「前置詞＋受け手＋ diajarkan」（〜に教える）から前置詞が落ちて、「受け手＋ diajarkan」となったという可能性が考えられる。これは「与える」(diberikan) についての仮説と同じである。

以下、diajar と diajarkan の事例を示す。

(26) Masyarakat pedalaman tak pernah **diajar** teknologi pengolahan hasil ladang.
民衆 奥地 〜ない 〜したことがある di-形(教える) 技術 加工 成果 畑
「奥地の住民は、畑の収穫物の加工技術を教わったことはなかった。」(*Kompas*, 7

Februari 2004)

(26) は diajar の例である。主語には受け手 masyarakat pedalaman（奥地の住民）が述べられ、動詞の後に補語として動作対象 teknologi pengolahan hasil ladang（畑の収穫物の加工技術）が続く。データではこのような規範通りの構造をもつ文がほとんどである。

(27) Seni karawitan **diajarkan** sejak kelas empat sampai kelas enam. (*Kompas*, 19 Maret 2004)
芸術 楽器音楽 di-kan（教える）～以来 学年 4 ～まで 学年 6
「器楽は 4 年から 6 年まで教えられる。」

(28) Di sekolah yang tidak memiliki ruang kelas ini, mereka **diajarkan** berbagai
～で 学校 関係詞 ～ない 持つ 部屋 授業 これ 彼ら di-kan（教える）様々な
keterampilan sebagai bekal hidup masa depan. (*Kompas*, 24 Maret 2004)
技術 ～として 糧 生きる 将来
「この教室を持たない学校で、彼らは将来の生活の糧になるような様々な技能を教わる。」

(27) と (28) は diajarkan の例であるが、主語の意味役割が異なる。(27) は Sneddon et al. (2010) が述べる通り、主語 seni karawitan（器楽）は動作対象である。(28) では規範とは違い、主語 mereka（彼ら）は受け手である。このような例が若干見られている。

以上、「教える」という意味をもつ mengajar と mengajarkan、diajar と diajarkan をコーパスデータにおいて考察した。能動文において、mengajar は文法書と辞書の記述通り、動詞直後の目的語として受け手と動作対象の両方をとることがわかったが、目的語が現れない自動詞的な意味で用いられる例が非常に多いことも注目すべき点である。mengajarkan は、mengajar とは異なり目的語として動作対象のみが述べられるとされるが、データにおいては mengajar と同じように動詞直後の目的語として受け手と動作対象の両方が見られた。しかしながら、「mengajarkan+ 受け手」は規範では見られないものである。また、mengajar と mengajarkan のいずれも名詞句の目的語が見られるが、補文をなす目的語は mengajarkan に偏っていることが明らかになった。

受動文では、Sneddon et al. (2010) の記述の通り、diajar は主語（能動文における目的語）のほとんどが受け手であり、diajarkan は主語の多くが動作対象であった。ただし、それとは異なる「受け手＋ diajarkan」も観察されている。これについては、一つの可能性として「与える」(diberikan) と同じ解釈を提案したい。本来は受け手が動詞よりも前に述べられる場合は前置詞が必要である（「前置詞＋受け手＋ diajarkan」）が、そこから前置詞が落ちて、「受け手＋ diajarkan」となったという可能性が考えられる。

4.4 他動詞「歌う」(menyanyi/menyanyikan、dinyanyi/dinyanyikan)

他動詞「歌う」(menyanyi/menyanyikan) もまた、Sneddon et al. (2010: 261) において接尾辞 -kan が付加された動詞とされていない動詞は能動文で同じく動作対象を目的語としてとり、受動文では動作対象の主語に対して接尾辞 -kan が付加された dinyanyikan

が選ばれるとしている。しかし、menyanyi は、KBBI Daring および Stevens and Schmidgall-Tellings (2010) の記述からは、自動詞とみなしていることが示唆される。

Kompas 紙の事例を分析し、menyanyi と menyanyikan に対する目的語の意味役割と数を観察した結果が以下の表 7 である。

表 7：menyanyi と menyanyikan（歌う）の頻度と目的語

menyanyi	65
menyanyi	60
menyanyi －動作対象	5
menyanyikan	65
menyanyikan －動作対象	65

menyanyi と menyanyikan は異なる内訳が見られた。menyanyi は目的語が述べられない事例がほとんどであり、ほぼ自動詞的に用いられていた。動作対象を表す目的語も若干見られたが、Jazz（ジャズ）というような大きなジャンルを表す名詞句であった。このような自動詞的な用いられ方は 4.3 で見た mengajar と同様であり、Moeliono et al. (2017: 468) の “verba semitransitif”（半他動詞）と Sneddon et al. (2010: 251-252) の “pseudo-intransitive verbs” と言えるかもしれない。一方、menyanyikan は全て動作対象の目的語が述べられ、多くが特定の曲を表す定の名詞句であった。したがって、この結果は、menyanyi と menyanyikan は能動文において同じ意味を表し、いずれも動作対象の目的語をとるという Sneddon et al. (2010: 261) の記述と矛盾するものではないが、頻度の点から見ると、目的語をとる場合は menyanyikan が選ばれやすいと言えるだろう。以下、menyanyi と menyanyikan の例を示す。

(29) Dia　waktu itu　**menyanyi**　di　dekat rumah-nya.　(*Kompas*, 21 Februari 2004)
　　彼（女）時　それ meN- 形（歌う）～で　近い　家 - 彼（女）の
「彼女はその時家の近くで歌っていた。」

(30) Saat itu Janet dan Timberlake berduet　**menyanyikan**　lagu Rock Your Body.
　　時　それ 人名　そして 人名　デュエットする　meN-kan（歌う）　歌　曲名
「その時 Janet と Timberlake は Rock Your Body という曲をデュエットで歌った。」
(*Kompas*, 4 Februari 2004)

(29) は menyanyi の後に目的語が述べられず、場所を表す前置詞句が続いており、この文での menyanyi は自動詞として機能していることがわかる。それに対して、(30) は menyanyikan に特定の曲名を表す lagu Rock Your Body の名詞句が目的語（動作対象）として後続する例である。

引き続き、受動文で用いられる di- 形である dinyanyi と dinyanyikan を観察する。

表 8：dinyanyi/dinyanyikan（歌う）の頻度と主語（目的語）

dinyanyi	0
dinyanyikan	24
動作対象 − dinyanyikan	24

表 8 から明らかな通り、全体数が少ないが、データで見る限り接尾辞 -kan が付加されていない di- 形の dinyanyi はなく、dinyanyikan のみという結果となった。menyanyi の事例の多くが目的語をとらないものであったことから、受動文で用いられる形態の dinyanyi は観察されないのはもっともである。この結果から、受動文では動作対象の主語に対して接尾辞 -kan が付加した他動詞が用いられるとする Sneddon et al. (2010: 261) の記述は検証されたと言える。以下、dinyanyikan の例をあげる。

(31) Namun, ketika lagu usai **dinyanyikan**, mereka pun tertawa dan bertepuk tangan riuh.
しかし　～の時 曲　終わる di-kan（歌う） 彼ら　～も 笑う　そして 拍手する　賑やかな
「しかし、曲を歌い終わった時、彼らは笑い、賑やかに拍手をした。」(*Kompas*, 2 Februari 2004)

この例では、接続詞 ketika が導く従属節が関連する。動作対象である名詞句 lagu（曲）が主語を構成し、それに対する述語 usai dinyanyikan（歌い終わる）において接尾辞 -kan が付加した他動詞 dinyanyikan が用いられている。

このように、「歌う」を意味する動詞を、コーパスデータに基づき能動文と受動文において考察した。menyanyi と menyanyikan は能動文において同じ意味を表し、いずれも動作対象の目的語をとるという Sneddon et al. (2010: 261) の記述とは矛盾しないものの、頻度においては menyanyi は目的語をとらない自動詞的な用法が多数であり、他動詞としてはもっぱら menyanyikan が用いられていることがわかった。

受動文に関しては、接尾辞 -kan が付加されていない di- 形の dinyanyi は見られず、dinyanyikan のみ認められるという結果となった。受動文では動作対象の主語に対して接尾辞 -kan が付加した他動詞が用いられるとする Sneddon et al. (2010: 261) の記述は検証されたと言える。

4.5 他動詞「言及する、呼ぶ」(menyebut/menyebutkan、disebut/disebutkan)

Sneddon et al. (2010: 88) は menyebut と menyebutkan は同じく「～に言及する (mention)」という意味を持ち、menyebutkan の接尾辞 -kan は optional であると述べる。また、menyebut と menyebutkan は「～に言及する」の他に「～を…と呼ぶ」という意味をもつ。「～を…と呼ぶ」の意味の場合は、目的語の後に補語が述べられる。受動文における接尾辞 -kan の使用については、Sneddon et al. (2010) で特に言及されていない。辞書の用例を見る限りでは、disebut と disebutkan の両方とも「動作対象 + disebut/disebutkan（+ 補語）」「disebut/disebutkan + 動作対象（補文節）」が認められる。

まず、*Kompas* 紙で見られた menyebut と menyebutkan を目的語に注目しながら分析し、

集計したものが表 9 である。

表 9：menyebut と menyebutkan（言及する、呼ぶ）の頻度と目的語

menyebut	394
menyebut	4
menyebut －動作対象	174
menyebut －動作対象－ sebagai －補語	96
menyebut －動作対象－補語	15
menyebut －補文	105
menyebutkan	1241
menyebutkan	10
menyebutkan －動作対象	138
menyebutkan －動作対象－ sebagai －補語	15
menyebutkan －補文	1078

表 9 が示すように、menyebut と menyebutkan は能動文において目的語として動作対象が述べられるという点においては大きな違いはない。目的語が名詞句の場合と補文節の場合があるという点においても共通している。しかしながら、頻度においては、傾向が異なることがわかる。menyebut の目的語は名詞句がより多く、補文節が続くこともあるが少ない。一方、menyebutkan の目的語は大半が補文節である。以下に menyebut と menyebutkan の例を示す。

(32) Meski　tidak　**menyebut**　nama　Akbar Tandjung, peserta kampanye tampaknya
　～だとしても　～ない　meN- 形（言及する）名前　人名　参加者　選挙活動　～のように見える
　memahami siapa yang　dimaksud　Paloh. (*Kompas,* 13 Maret 2004)
　理解する　誰　関係詞　意図する　人名
「Akbar Tandjung の名前を言及しなくても、選挙活動の参加者は Paloh が意図したのが誰なのかわかったようである。」

(33) Kita　biasa　**menyebut**　mereka　genius. (*Kompas*, 5 Maret 2004)
　私たち　普通の　meN- 形（言及する）　彼ら　天才
「私たちは普通は彼らを天才と呼ぶ。」

(34) Dia　**menyebut**　kejadian　itu　sebagai　masalah kostum　yang　tidak　beres.
　彼（女）　meN- 形（言及する）　出来事　それ　～として　問題　コスチューム　関係詞　～ない　解決した
「彼女はその出来事を解決しないコスチュームの問題であると述べた。」(*Kompas*, 4 Februari 2004)

(35) Pada bagian lain Kant **menyebut**　bahwa　seni　selalu berangkat dari　dua　titik,
　～で　部分　他の　カント　meN- 形（言及する）　補文標識　芸術　常に　出発する　～から　2　点
　“moral”　dan　“kegunaan”. (*Kompas*, 29 Februari 2004)
　モラル　そして　有用性

「他の箇所で、カントは、芸術は常に 2 つの点、“ モラル ” と “ 有用性 ” を出発点としていると述べている。」

(32) 〜 (35) の 4 つは menyebut の例である。(32) は目的語として動作対象 Akbar Tanjung のみが述べられている。(33) は動作対象である目的語 mereka（彼ら）に加えて、補語 genius（天才）が述べられ、「彼らを天才と呼ぶ」という意味を表す。(34) も「〜を…と呼ぶ」という意味で用いているが、「…と」の部分は前置詞 sebagai（〜として、〜のように）によって導かれている。データでは前置詞がある例とない例の両方の事例が認められる。(35) は menyebut の目的語として補文節が述べられる例である。この例では補文節を導く bahwa があるが、bahwa が用いられない例もデータには見られる。

(36) Dua pasal tersebut jelas **menyebutkan** hal itu. (*Kompas*, 5 Maret 2004)
2 条項 既述の 明らかな meN-kan（言及する）事柄 それ
「その 2 つの条項ははっきりとその事柄について言及している。」

(37) Salah satu laporan **menyebutkan** bahwa korban tewas 23 orang. (*Kompas*, 16 Februari 2004)
〜の一つ 報告書 meN-kan（言及する）補文標識 犠牲者 死亡する 23 人
「報告書の一つには死亡した犠牲者は 23 人であると述べられている。」

(38) UU 12/2003 **menyebutkan**, daerah pemilihan anggota DPR adalah provinsi atau
法律 2003年12号 meN-kan（言及する）地方 選挙 議員 国会 すなわち 州 あるいは
bagian dari provinsi. (*Kompas*, 15 Maret 2004)
部分 〜から 州
「2003 年第 12 号法律では、国会議員選挙区は州あるいは州の一部分が単位となると述べられている。」

(36) 〜 (38) の 3 例は、menyebutkan の事例である。(36) は menyebutkan の目的語として動作対象が述べられ、(32) の menyebut の例と同じ構造を持つ。(37) と (38) は menyebutkan の目的語が節を構成する例であり、(35) の menyebut の例と変わらない。

引き続き、受動文における disebut と disebutkan について考察する。先に述べたように、受動文における接尾辞 -kan の使用については、Sneddon et al. (2010) で特に言及されていない。辞書の用例を見る限りでは、disebut と disebutkan の両方とも「動作対象 + disebut/disebutkan（+ 補語）」「disebut/disebutkan + 動作対象（補文節）」が認められる。受動文に用いられる disebut と disebutkan の頻度を文構造に注目して集計したものが表 10 である。

表 10：disebut と disebutkan（言及する、呼ぶ）の頻度と主語（目的語）

disebut	900
動作対象－ disebut －補語	548
動作対象－ disebut － sebagai －補語	235
動作対象－ disebut － dengan －補語	37
disebut －動作対象	21
disebutkan	521
disebutkan	43
動作対象－ disebutkan	91
動作対象－ disebutkan －補語	63
動作対象－ disebutkan － sebagai －補語	9
動作対象－ disebutkan －補文	14
disebutkan －補文	299

このように、受動文においても接尾辞 -kan の有無に関わらず、文構造は同じであるが、頻度が異なる。動作対象である主語だけでなく、補語が動詞に続く「主語 + disebut/disebutkan + (sebagai/dengan) + 補語」の構造の文の場合、disebut が disebutkan よりも多い。主語である補文節が倒置する「disebut/disebutkan + 補文節」の場合は、disebut よりも disebutkan の方が多い。動作対象が句か節によって、選ばれる他動詞が異なるということは、能動文と共通している。受動文の具体例を以下に示す。

(39) Mereka tidak mau **disebut** orang Aceh, dan lebih suka **disebut** sebagai
彼ら　～ない ～したい di- 形(呼ぶ) 人　アチェ そして より 好き di- 形(呼ぶ) ～として
orang Gayo. (*Kompas*, 21 Februari 2004)
人　ガヨ
「彼らはアチェ人と呼ばれたくはなく、ガヨ人と呼ばれるのをより好む。」

(40) Pertemuan rahasia itu **disebutkan** berlangsung selama tiga hari dan berakhir pada hari
会合　秘密　それ di-kan(呼ぶ) 開催される ～の間 3　日　そして 終わる　～に 日
Minggu lalu. (*Kompas*, 15 Januari 2004)
日曜　過ぎた
「その密談は 3 日間実施され、日曜日に終了したと述べられている。」

(39) と (40) は、disebut と disebutkan に補語が続く例である。能動文の場合と同様に、補語がそのまま述べられる場合と前置詞 sebagai（～として、～のように）によって導かれる場合がある。(39) は disebut orang Aceh（アチェ人と呼ぶ）と disebut sebagai orang Gayo（ガヨ人と呼ぶ）という両方の例が含まれている。前者は動詞にそのまま補語が続き、後者は補語を前置詞 sebagai が導いている。(40) は補語が動詞の例である。これらのような補語を伴う例は、disebut と disebutkan 両方に見られるが、表 10 で示した通り disebut により多く見られる。

(41) Selalu **disebut** bahwa saat ini adalah kesempatan bagi BI
いつも di- 形(呼ぶ) 補文標識 時 これ すなわち 機会 ~にとって インドネシア銀行
untuk menurunkan suku bunga sehingga pengusaha lebih bergairah. (*Kompas*, 26 Februari 2004)
~ために 低下させる 利率 その結果 実業家 より 活発になる
「常に述べられることは、現在はインドネシア銀行にとって利率を低下させ、実業家がより活発に動くための良い機会であるということだ。」

(42) Dalam surat itu **disebutkan**, penduduk Baduy kini 7.331 jiwa (1.865 keluarga).
～の中 書類 それ di-kan(呼ぶ) 人口 バドゥイ 現在 7,331 ～人 1,865 家族
「この文書には、バドゥイの人口が現在 7,331 人（1,865 世帯）であると述べられている。」(*Kompas*, 18 Februari 2004)

(41) と (42) は disebut あるいは disebutkan の後に、倒置された主語として補文節が述べられている。(41) は補文節を導く標識である bahwa が現れ、(42) はそのような接続詞がない例である。このような節が後続する例は、disebut と disebutkan の両方に見られるが、上の表 10 で示した通り disebutkan の頻度がよい高い。

以上、menyebut と menyebutkan 、disebut と disebutkan について *Kompas* 紙のコーパスデータに基づいて考察した。Sneddon et al. (2010: 88) は menyebut と menyebutkan は同じく「～を／に言及する (mention)」という意味を持つと述べ、データで見られた例はそれと一致していた。すなわち、menyebut と menyebutkan は能動文において目的語として動作対象が述べられるという点においては大きな違いはなかった。ただ、menyebut の目的語は名詞句がより多く、補文節が続くこともあるが少ない一方、menyebutkan の目的語は大半が補文節であるという違いが見られた。

受動文においても、接尾辞 -kan の有無に関わらず、主語が動作対象であるという点は同じであった。違いとしては、disebut は、補語が動詞に後続する場合に多く見られ、disebutkan は能動文の場合と同様に主語が補文節を構成することが多く、受動文では主語が倒置し動詞に後続する例が多く見られた。動作対象が句か節によって、選ばれる他動詞が異なるということは、能動文と共通していると言える。

4.6 考察

以上、コーパスに基づき、optional の接尾辞 -kan が付加する他動詞と付加しない他動詞の両方が認められる 5 つの意味「送る」(mengirim/mengirimkan)、「与える」(memberi/memberikan)、「教える」(mengajar/mengajarkan)、「歌う」(menyanyi/menyanyikan)、「言及する」(menyebut/menyebutkan) について、それぞれ能動文と受動文において目的語の意味役割や文構造に注目し分析した。その結果、optional の接尾辞 -kan が付加された他動詞群は、必ずしも optional とは言えない場合や、接尾辞 -kan には何らかの機能が備わっていると考えられる場合が見られた。それらの個別に観察された差異について明らかになったことを以下の 3 つの観点から捉え直す。

(1) 接尾辞 -kan の有無と意味役割の違い、能動文と受動文の違い

能動文では、どの動詞も概ね接尾辞 -kan は optional であった。しかしながら、受動

文の場合は、動詞によって違いが見られた。「与える」(memberi/memberikan) は、能動文では接尾辞 -kan の有無に関わらず目的語は動作対象が多かったが、受動文においては主語（能動文における目的語）の意味役割が受け手である場合は接尾辞 -kan が現れず、動作対象の場合は接尾辞 -kan が現れた。「教える」(mengajar/mengajarkan) の場合は、接尾辞 -kan がない mengajar は自動詞的に用いられる例が非常に多いが、他動詞として使われている場合は「与える」(memberi/memberikan) と同じ傾向を示している。

一方、「送る」(mengirim/mengirimkan) についても、接尾辞 -kan の有無に関わらず能動文で目的語は全て動作対象であった。しかし、「与える」(memberi/memberikan) とは異なり、受動文においても主語（能動文での目的語）には動作対象が現れ、受け手の例は見られなかった。また、「言及する」(menyebut/menyebutkan) は、補語がさらに述べられるという点は他の動詞と異なるが、目的語として動作対象のみが現れるということでは共通している。

このように、「与える」(memberi/memberikan)、「教える」(mengajar/mengajarkan) のように、能動文では接尾辞 -kan の有無に関わらず目的語は動作対象が多く、受動文では意味役割が受け手である場合は接尾辞 -kan が現れず、動作対象の場合は接尾辞 -kan が現れるという動詞がある一方、「送る」(mengirim/mengirimkan) と「言及する」(menyebut/menyebutkan) のように、能動文でも受動文でも接尾辞 -kan の有無に関わらず目的語は動作対象である動詞がある。このことから、前者は能動文に限り接尾辞 -kan は optional であり、後者は能動文でも受動文でも接尾辞 -kan は optional であると言える。

(2) 接尾辞 -kan の有無と自他の区別

「歌う」(menyanyi/menyanyikan) と「教える」(mengajar/mengajarkan) については、接尾辞 -kan が付加されない場合、目的語をとらない例、つまりいわば自動詞と言ってもよい用法の例が非常に多いことがわかった。menyanyi はほぼ目的語がなく自動詞的に用いられ、mengajar は他動詞と自動詞的用法の両方の用例が見られたという頻度の違いはあるが、この 2 つの意味に関しては、接尾辞 -kan の有無は、自動詞と他動詞の違いに関係し、接尾辞 -kan が目的語の存在を表す、つまり他動詞であることを明確にする機能をもつと言える。

(3) 接尾辞 -kan の有無と目的語の構造の違い

(1) で述べた通り「言及する」(menyebut/menyebutkan) と「教える」(mengajar/mengajarkan) については、接尾辞 -kan の有無と関係なく動作対象の目的語をとるが、接尾辞 -kan がある場合は目的語が補文をなしている例が多いことがわかった。それは能動文と受動文のいずれの場合も同じ傾向であった。したがって、接尾辞 -kan は単に optional とは言えず、目的語が補文であることを示唆する機能をもつと言える。

5. おわりに

このように、新聞のコーパスデータに基づき、主に上記の 3 点の観点から、optional

の接尾辞 -kan が付加される他動詞に分類される動詞群の中にも差異が認められ、特に文法書の記述とは異なる点があることが明らかになった。頻度については本稿で初めて明らかになったことであり、またこれまでの文法書や辞書の記述には明示的には述べられていない現象も新たに認められた。

ただし、本稿で明らかになったことは、標準インドネシア語が用いられるフォーマルな使用領域に限って見られるものである可能性がある。また新聞というジャーナリスティックなコーパスに特徴的なものという可能性もある。そのため、他のタイプのコーパスを対象として検証する必要があるだろう。

さらに、本稿では optional とされる接尾辞 -kan の有無に焦点をあてたが、同じ基語をもち、場や受け手の目的語をとる接尾辞 -i が付加される他動詞は分析していない。今後の課題として、どのような意味役割の目的語をとるのかを同じ基語をもつ複数の他動詞の間で比較しながら分析する必要がある。

注

i　本稿はインドネシア語教材の課題について論じた森山・原・降幡 (2022) の 3.1 節の内容をさらに発展させたものである。なお、本稿は、科学研究費助成事業（基盤研究 C）「日本のインドネシア語教育における上級教材の研究とインドネシア語活用辞典の開発」（2021 〜 2025 年度）の助成を受けている。

ii　前置詞 − 受け手が動作対象に前置された mengirim − 前置詞 − 受け手 − 動作対象（2 ケース）が含まれる。

iii　この現象は、memberi/diberi は、主に場 (locative) や受け手 (recipient) の目的語をとることを表す接尾辞 -i が付加されているという解釈と関係すると考えられる。本稿ではその問題に踏み込まないが、簡単にその解釈について述べておく。他動詞の接尾辞には -kan の他に -i があるが、基語が i で終わる場合、接尾辞 -i がさらに付加しない（つまり ii という連続は許されない）という音韻規則がある。しかし、音韻的に *memberii/*diberii が許されなくても、意味的に接尾辞 -i が付加されているという解釈は排除されるわけではない。受動文では主語（能動文における目的語）がもっぱら受け手であるという本稿の結果は、形態上は一見接尾辞 -i が付加していないように見えるが、本来は付加しているという解釈をサポートするものかもしれない。ただし、もしその解釈が有効であるとするならば、能動文の memberi の直後に現れる目的語が受け手（人）よりも動作対象（もの）の方がはるかに多いのはなぜかという疑問が残る。

iv　memberi tahu（知らせる）、memberi makan（食べさせる）、memberi minum（飲ませる）が見られたが、除外してある。

v　diberi tahu（知らせる）、diberi makan（食べさせる）が見られたが、分析対象から除外した。

参考文献

森山幹弘・原真由子・降幡正志
2022　「コーパス・データを用いたインドネシア語応用教材の開発における課題」『インドネシア 言語と文化』28 号、pp.105-122.

Badan Pengembangan dan Pembinaan Bahasa Kementerian Pendidikan, Kebudayaan, Riset dan Teknologi Republik Indonesia

2016　*KBBI Daring VI*（『インドネシア語大辞典』オンライン版第 6 版）https://kbbi.kemdikbud.go.id/Beranda

Moeliono, Anton M. et al.

2017　*Tata Bahasa Baku Bahasa Indonesia Edisi Keempat*（『インドネシア語標準文法第 4 版』）, Badan Pengembangan dan Pembinaan Bahasa Kementerian Pendidikan dan Kebudayaan.

Sneddon, James Neil, Alexander Adelaar, Dwi Noverini Djenar, Michael C. Ewing

2010　*Indonesian−A Comprehensive Grammar Second Edition*, Routledge.

Stevens, Alan M. and A. Ed. Schmidgall-Tellings

2010　*A Comprehensive Indonesian English Dictionary Second Edition*, Ohio University Press.